

すわみつえ通信

No.183 2021年7月26日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諒訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

2年が経ちました。埼玉県民の声を
ぶつけて政治を前にと進めてきました。
今日はから総選挙に向けて鴻巣を
スタートとし、全県各地を走り回る
キヤラバン宣伝を開始しました。10
月には必ず行われる総選挙で野党を
大きく伸ばしていただきたい、日本
共産党を躍進させていただきたい

と訴えました。

東京五輪開会式を6時間後に控え
た7月23日(金)14時、日本共産党・
伊藤岳参議院議員と日本共産党秋山
もえ県会議員(上尾選出)が鴻巣駅
を皮切りに北本駅・桶川駅・西上尾
第一団地・上尾駅と「オリンピック
よりもコロナ対策に全力」を求めて
街頭宣伝を行いました。

「10月の総選挙に向け
ゴー！ゴー！ダッシュユ!!

鴻巣駅東口で多くの聴衆に、秋山も
え県議は「埼玉県は今用から介護入
所施設以外にデイサービスなどの通
所施設にもPCR検査を拡大した。
埼玉県政が大きく前進している」と
県政の報告。続いて、伊藤岳参議院
議員は「7月21日に皆さんのご支援
で国会に押し上げていただき、丁度

成田空港にバブル方式がどうなつて
いるのか視察に行つた。政府は『海
外から来た選手団は宿泊所・競技場
に運ぶから感染は拡からない』と言つ
ていた。ところが選手団は一般的の乗
客と一緒にいることがわかりまし
た。遠くから来日の選手団はトラベルジッ
トする空港で3時間滞在する。そこ
では一般乗客と一緒にです。成田空港
でも一般の方と同じ通路を通ります。
バブルに守られていません』

「国民は我慢に我慢を重ねて感染
拡大防止のため、政府のいう自粛に
協力してきた。ところが政府がオリ
ンピックを强行することで感染が拡
がつてしまつたのではないか。
今からでも菅総理と組織委は中止の
決断をすべきではないでしょうか」
と力強く訴えました。



総選挙に向け、街頭宣伝＝鴻巣駅、23日

今からでもオリンピック
中止の決断を！

2年が経ちました。埼玉県民の声を
ぶつけて政治を前にと進めてきました。
今日はから総選挙に向けて鴻巣を
スタートとし、全県各地を走り回る
キヤラバン宣伝を開始しました。10
月には必ず行われる総選挙で野党を
大きく伸ばしていただきたい、日本
共産党を躍進させていただきたい

と訴えました。

すわみつえ市議は初当選した時点
で取り上げてきた、川里・広田小通
学路の歩道拡幅と、新たに鴻巣中央
小に通学区域拡張により通学して
いる内田ヶ谷線の歩道整備を要望し
ました。千葉県八街市の通学路で起
きた痛ましい事故があり、とりわけ
子どもたちの通う道路の安全は行政
の責務と考えます。引き続き取り組
んでまいります。



北本県土整備事務所

友釣りの鮎二十匹と初恋と

俳句コーナー

瑠璃子

北本県土事務所と懇談

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。
(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

中止「命」の名において 赤旗編集局 政治部長 中祖寅一



2019年12月31日に「原因不明の肺炎」の報告がされてから1年半余一。日本国内では、新型コロナウイルス感染症で86万2143人が感染し、1万5116人が亡くなりました（7月23日まで、NHK調べ）。世界では2億に近い人が感染し、400万を超える人が亡くなっています。文字通り人類社会を戦後最大の危機が襲っています。個人と社会を保護する国と政治の役割がこれほど鋭く問われたことはありません。「命」の尊さを社会全体が見つめてきました。政治は「命」を守るためにある—この原点が万人の共通の認識になったと言えます。

安倍・菅自公政権は、「安全・安心」を繰り返しながら、ことごとく政治の使命と国民の訴えに背き続けてきました。「自己責任」論に固執し、営業制限に不可欠の補償は不十分なまま、医療機関への減収補填（ほてん）に背を向け、無症状感染者発見のPCR検査を抑圧しました。GoTo事業は感染を全国にまん延させる逆行でした。その究極の到達点が五輪開催の強行です。

政府による補償を欠いた「営業制限」は効果を失って人流抑制は進まず、何より「人流抑制」と言いながら世界最大の祭典の開催という矛盾が人々の行動を促進し、全国に危険は拡散しています。

一方、医療現場では試行錯誤を繰り返しながら必死の救命、治療を続ける人々がいます。基礎疾患を抱え、感染の恐怖におびえながら経済的困窮にも耐えて懸命に生きる努力をする人々がいます。危険は弱い立場の人にはほど、より深刻な危険となって襲いかかります。

國家の威信をかけた事業に国民の命が多少の犠牲をうけても仕方ないというなら人権の根本原理からも完全な誤りです。政治の誤りで多くの「命」への新たな危険が現実の危機となる—あってはならない現実です。怒りを込めて東京大会開催の強行を糾弾し、「命」の名において直ちに中止を求めます。

もとよりアスリートに責任はありません。「命」を守るため大会中止の決断を下すのは政治の責任です。

（しんぶん赤旗 7月25日付）

コラム 河北春秋 オリンピックをカラーで見たい カラーで…

「オリンピックをカラーで見たい カラーで見せたい」。1964年の東京五輪でヒットしたカラーテレビの広告。当時は白黒の普及率が9割近く。メーカーの願望が込められていたという▼五輪で広告界は沸き立った。化粧品大手の「MAKE-UP TOKYO」など東京を冠した広告が世間を風靡（ふうび）した。『キャッチフレーズの戦後史』（深川英雄著）に「東京がそれだけ国際化したことの表れでもあった」とある▼57年後。沸き立つムードは全くない。最高位スポンサーのトヨタ自動車が五輪に関するテレビCMの放送を見送った。役員の「いろんなことが理解されない五輪になりつつある」との感想は言い得て妙。トップの開会式不参加も多かった。本来なら企業イメージのアップにつながるはずの五輪が、消費者の反発を招きかねない火種になってしまった▼「自宅で家族と楽しみたい」と経団連会長が言ったように、きょうもテレビ前で応援しようか。わが家のテレビはごく普通の液晶だが、ブラウン管と比べれば画質は申し分ない▼57年前のウイスキーのコピーが今に当たる。「みんな、山を見る オレ、川を見る みんな、東京に集まる オレ、旅に出る テレビで観（み）る トリス飲む」。オレ、旅は無理だけど飲むことにはしよう。（河北新報 7月24日）



もはや赤ちゃんではない エゾフクロウ

ケージの前に立つと、おくから手前に飛んできてのぞきこむ。円形を二つに分けたような丸い顔、真っ黒で大きな目。「何しに来たの？」と聞いているのかな。北海道帯広市の「おびひろ動物園」にいるエゾフクロウのメス「まろ」。担当の村津颯（そう）さんによると、昨年6月7日、帯広空港近くの木を切る作業中、地面に落ちているのが見つかった。生後1ヶ月ぐらいだった。動物園で保護し、村津さんが親代わりになった。

村津さんは「成長の歩み」を書いている。「6月26日 止まり木に体をだらーんとあずけるすがたも見られるようになりました。片足で立つようになりました。リラックスした際に見られる行動です」、7月28日は「もはや赤ちゃんではない」と標題。「大人のフクロウの見た目に近づいてきました。ピイピイ鳴く声も若干低くなつたような…」。でも今でも村津さんがケージに入ると飛んで来て、うでに止まる。安心しきった顔。やっぱり親だと思っているみたいだ。（共同通信社 3月8日）

